

Ⅱ-81

地域特性と住民参加の河川美化・緑化運動
のあり方に関するアンケート調査

秋田大学 鉱山学部 土木工学科 ○学生員 宮居 隆文

正 員 石井 千万太郎

1. はじめに 河川と住民のつながりは、地域の特性により様々な形をとる。そこで本調査は地域特性と住民参加の河川美化・緑化運動の実態との関連をアンケート調査し、運動の抱えている問題点を指摘するとともに、各地域特性ごとのあり方を検討するものである。そこで河川美化・緑化運動の抱えていると予想される問題点は、①運動のリーダー・団体構成員の高齢化、後継者不足、②河川美化・緑化運動への参加者の不足、③住民と行政の役割が不明確などがある。

2. 調査内容 地域特性と河川美化・緑化運動の実態との関連を調査するために、団体の代表者に対して河川美化・緑化運動の「運営の実態」と「対象河川」について、主に以下のことについてアンケート調査を行った。

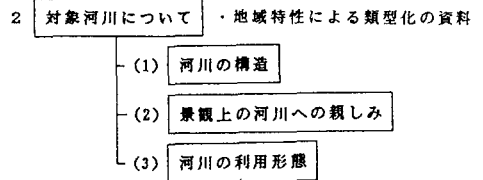


図-2 対象河川

地域特性は以下のようにする。

①地域別（市街部・近郊部・郊外部）②河川構造の違い（複断面の河川・単断面の河川・天然の河川・緩勾配な川岸＜護岸＞・急勾配な川岸＜護岸＞等）③景観上の河川への親しみの違い④河川の利用形態

また、市街部・近郊部・郊外部の分類方法は市街部（地図上で明らかに市街部と思われる地域）・郊外部（地図上で明らかに郊外部と思われる地域）・近郊部（市街部と郊外部の中間地域）である。

3. アンケート調査結果 今回アンケート調査対象となった団体数は693団体（回収率55%）であり、323団体のアンケート調査をもとに地域特性（市街部、近郊部、郊外部）の類型化による集計結果を行いクリーンアップ作戦についてまとめた。

1) クリーンアップ作戦を行う上での問題点

図-3を見てみると、市街部・近郊部では回答率は低い。A「人が集まらない」の問題点が一番多く、次にD「活動の資金・資材の不足」E「特殊な機械が必要」などが問題となっている。しかし郊外部では僅差であるがD「活動資金・

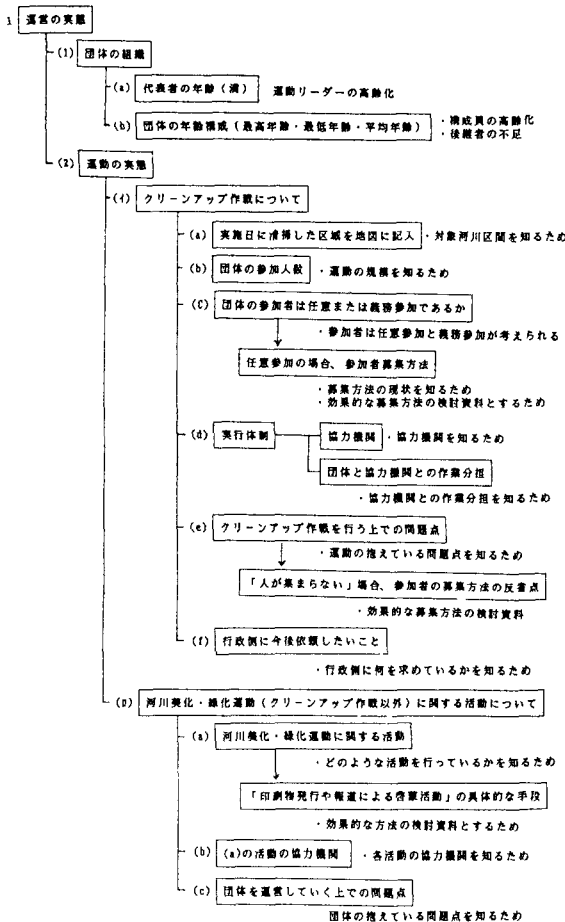


図-1 運営の実態

資材の不足」が一番問題となっており、A「人が集まらない」C「河川の構造や状況などが危険で作業ができない」が次に問題となっている。

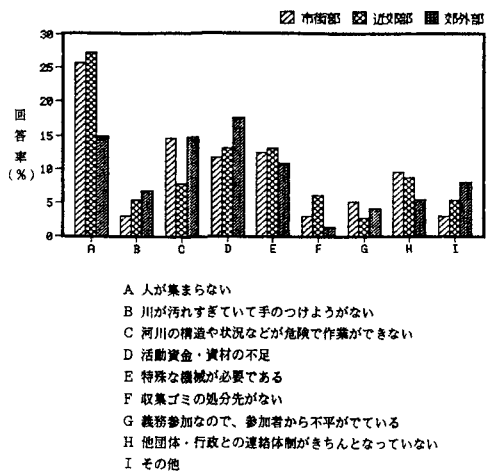


図-3 クリーンアップ作戦を行う上での問題点
2) 行政側への依頼内容 このような問題点を抱えている団体が、行政側に今後依頼したい内容についてまとめた。問題点は「人が集まらない」が多かったが、図-4を見ると行政側の依頼内容としては各地域ともA「参加者の募集面」はかなり低く、E「草木の切り払い」を行政側に望んでいる現状であり、特に郊外部ではB「資金面での援助」を望んでいる。

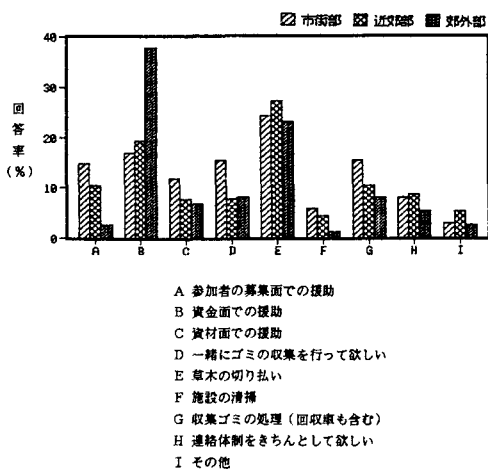


図-4 行政側に今後依頼したいこと
そこで現在、行政側がどのような面で団体に協力・援助を行っているのかまとめた。
3) 団体と市町村の作業分担 行政側の協力機関と

して70%の団体が「市町村と協力している」と回答していることより、団体と市町村の役割分担について注目することにする。下図を見てみると、郊外部では「資金の調達」「資材の調達」を市町村側に依存し、「ゴミの収集」「草木の切り払い」は団体側が中心となり行っているが、市街部では逆に「ゴミの収集」「収集ゴミの処理」は市町村側に依存し、「資金の調達」「資材の調達」はあまり市町村側に依存していないことがわかる。

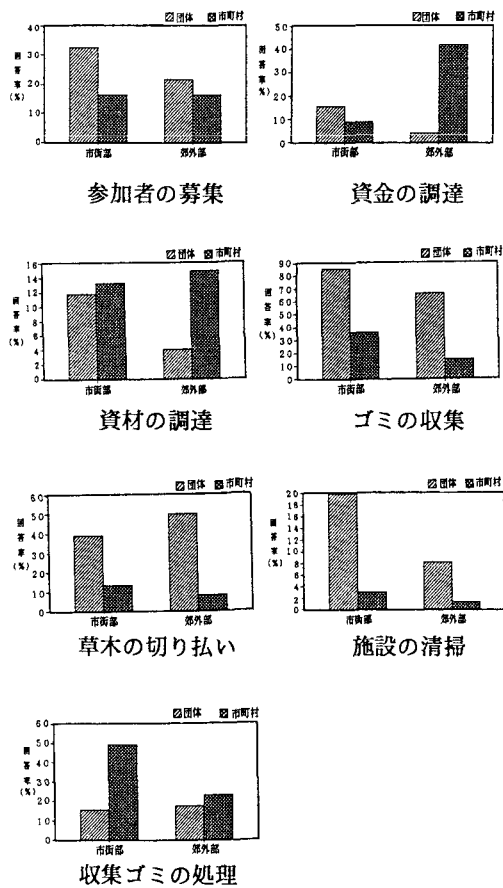


図-5 団体と市町村の作業分担
4. おわりに 本調査では地域特性（市街部、近郊部、郊外部）と河川美化・緑化運動の実態との関連を調査し、運動の抱えている問題点の指摘を行った。今後、他の地域特性についても調査を行い、各地域特性ごとの運動のあり方を検討していく。